



蓬萊町だより

昭和六十一年三月十日
第十号
発行集者 蓬萊町会
編集者 蓬萊町会

蓬萊町界限(その十)

肴町あたり(一)

林 順 信

◇なつかしの「相撲めん」

今の向丘一丁目、つまり昔の蓬萊町の電停あたりから北へ、肴町にかけての本郷通りの眺めは、都心にしては、まだ高層ビルがなく、比較的大きな空がひろがってほっとする。昨今はやるところの、土地あさりの利権屋の手もみせず、戦前の眺めと大きく変わっていない。しかし、来年の三月十日になると、現在の向丘丘高校テニスコート向かいの、ブラザーミシンのところに、地上33mを越すビルが建つことになる、建設予定の札が掲出された。

蓬萊町には浩妙寺、浄心寺、長元寺と、お寺が連なるために、空が大きく、高い木立が梢を冬空に、その繊細なシルウェットを見せてくれていることは、今や都内でも貴重な空間と言えらる。長元寺の長い長い塀が尽きるところに、蓬

萊町の告知板があり、横丁が直角に東に入っている。歳末には、町会の有志が歳末特別警戒のテントを張って頭張っているとある。この横町は、右手に大林寺、真浄寺を見て、海蔵寺の前で直角に左折して、顕本寺前から、真すぐ大観音通りに抜ける古い道で、私の手許の江戸図にある通りである。蓬萊町の町会の催しを告げる告知板のわきには、戦前から共同便所が建っていて、その東隣りには、逆丁の字型の太い太い水道管が上から垂れていた。その下の地面には、たつきで、二坪程のスペースが作られていた。東京市土木局の水撒き自動車が出て来ては、その太い水道管から水を補給する場所だった。余り気にもとめていなかったが、現在ではそんな設備もなくなっているらしい。その東の大林寺への角には、この間まで咄家の三遊亭圓遊さんが住んでいて、お弟子が、なまこ壁を一生懸命掃除をしている様子を眺めることが出来たが、今は師匠も他界して、家はそのままだが表札がかかっている。

ここから真浄寺までの途中にある、中島花屋は戦前からあって、私と大して年もちがわない旦那が、今でも、しきびなどを自転車に積んで本郷通りに行く姿にお目にかかったことがある。真浄寺の西の長い直線の塀ぞいの道は、私などの子供時分と大して変わらない感じだが、戦前は、途中に下宿屋が一軒あった様な気がする。

根津権現のお祭りの時には、蓬萊町の御神輿がかついで、この長い道を北に進んで、弁護士のお田さんの家の前で一ぶくするをらわしになっていた。その道の西の角、今は歯医者さんのところに、小さな駄菓子屋があった。その名前は今は想い出せないが、駄菓子屋としては当時は新しい方で、白っぽい感じの店だった。店は新しくしたが、ここには相撲めんが売っていたから、七番地の私は、わざわざここまで相撲めんを買いに来た。相撲めんには、写真めんと型ぬきの相撲めんの二種類があった。写真めんの方は、大きな名刺版ほどの印刷紙そのもので、大体は化粧まわしをしめた力士が立ち姿で写っていた。当時昭和十二年前後だから、玉錦武蔵山、男女ノ川、双葉山、鏡岩、清水川、出羽ヶ嶽、大の里、笠置山、海尖山、両国、出羽湊、巴瀧などの時代で、写真めんの右上には、出身地、所属部屋、年令、身重、体重、右(左)四つ、得意手が印刷されていた。中には、横綱の土俵入りのシーンや、取組み中のシーンがあって、これはごく枚数が少なかった。古新聞紙で捲えた小袋の中に写真めんが一枚づつ入ったのを、百枚ばかりを一束として、太い糸でとじ、中の写真が透けて見えない様になっているので、子供たちは、土俵入りや立ち合いの写真めんが当たります様に、願をかけて一枚だけでもぎ取るのであった。写真が貴重な時代だったので、一

銭で一枚という高価なものだった。写真めんは、紙が薄いので、土に叩きつける実戦には向かず、大ていは、プロマイドとして持ち歩き、友だちと、ひいきの相撲の写真を交換したのであった。

もう一つの相撲めんは、化粧まわしをした関取が仁王立ちした型をくりぬいたボール紙のめんこで、これは、今のポスター程の大きな厚紙の上に、上から下に六、七段の段になって、番付通りに、横綱・大関・関脇から前頭と、輪ゴムで、型ぬきのめんこを取りつけてあった。

横綱は、一か所で枚数が五十枚ばかり、大関が二か所で三十枚、関脇や小結だと二十枚ほどに減り、前頭は確か五枚だけ輪ゴムで止めてあるのがたくさんあった。一銭出して、一度だけ、下についているクジをひける仕組みになっていた。くじは外からは見難くなくていたが、斜めからすかせば全く見えなくもなかったが、小さな赤いはんこで、「前頭」とか「小結」とかが押しであった。駄菓子屋へやって来るガキどもだから、一銭とか二銭を、手の中に握りしめてやって来る。掌の熱と汗とで、銭からは湯気が立っている。

「相撲めんくれよ！」

「そのクジを一枚ひきな……」

「また前頭だよ。ほんとに横綱のクジ、こんなかに入ってるのかな……？」

そんなやりとりが交されるのも当り前で、板

の上には、分厚く止められた五十枚の横綱や大関がいつもちゃんと残っている。下の方には、薄い前頭が何個もある。引くクジは、何時も七、八枚から十枚くらいだから、どう考えても二、三度引けば大当りの率が高くなる筈のものであるが、それが悲しいかな、お足がたりないから、三度も四度もクジを引けない。

ある日、菊坂で旅館をしていた伯母が、家に来て、私に何か買ってやるといっているので、

「おばさん、五回でいいから、相撲めんのクジ引かせてよ」とねだった。伯母と私とで駄菓子屋に行った。あったあった。まだ、横綱も大関も健在でちゃんとその分厚い数十枚を重そうに輪ゴムが持ちこたえているではないか。残りの引きふだは八枚ばかり、そこで、伯母は、

「これ、全部ひいちゃおうよ。だって、どう考えたってトクだもの……」ときたものだから、これには駄菓子屋のおばさんも降参、八銭で全部を板ごともらって来て、あとでクジを引いたら、これじゃ、何時までたっても大当りはないという筈のものだった、この相撲めんは、木製の大きな麦酒箱に入れておいた三千枚の丸めんと共に、昭和二十年三月十日の東京大空襲で烏有と帰してしまった。他のものは粕壁に疎開させて助かったのに、めんこと江戸風だけは、それ程身近なものだったのだろう、常に座右に置いていたために焼いてしまったことは残念至極

である。

◇ 鈴木という、くるま屋が二軒並んでいた。この横丁の反対側は、専西寺のところから顕本寺にかけてのところの東は蓬萊町の町内なのだが、旧電車通りに面した方の南北の長四角は、肴町になっていた。だから、十方寺は、本堂や墓地は蓬萊町四六番地だが、参道は肴町に属していた筈である。

真浄寺門前の顕本寺の塀のところは、ちょうど東大農学部北側のカギの手になった横丁のところと同じ様に、区の土木課の、砂利やコールタールのドラム缶置場になっていて、これは戦後も長いこと変わらないう眺めだった。現在のブラザーミシンの角には、鈴木くるま屋があった。くるま屋といっても併屋ではなく、大八車を持つていて、貸していたのだと思う。余計なことだが、大八車は、東京は「代八車」と書き、八人分に代わる仕事をする車という呼び名と聞く。その東隣りには、これもまた鈴木というくるま屋でも、こちらの方は自転車屋があった。店前には、大きな藤棚があって、おやじさんはその下で、バケツの中にチューブを突っ込んでパンクを直していた。五月に入ると、甘ずっぱい藤の花の香りがあたりに漂っていたものである。この鈴木自転車屋は、くるま屋の鈴木さんとは親戚であるわけでもなかった。その東隣りには今、蓬萊町の角地で歯医者者をされている田中齒

(3)

科医院のご尊父の住居・診療所があった。私は、既に小学生時代から虫歯が多く、田中先生にはえらくお世話になった。先生は三重県四日市の富田中学校から水道橋の東歯を出られたので、常にやさしい関西弁で診察された。余談だが、富田中学校は、丹羽文雄や田村泰治郎を輩出した名門中学だ。田中先生の玄関には、ドイツ語のTかDの字を、毛筆で書いた額が掲げてあった。それは水道橋の東京歯科医専の偉い先生が書かれたものだと言われた。私は歯医者に通うのがつらく、ある年に、二十日間ほどさぼって、適当な時間に家へ帰るということを繰り返していった。すると、田中先生から家に葉書が届いていて、遂にさぼったことが発覚して、以後、ラジオ体操の判取り表の様に、診察がすむと、一々先生が捺印して下さるといふ手間までお掛けすることになった。戦後は、先生は暫らく、追分町の八木美容室のわきで診察されていたが、その後現在地に移られ、四十二才で急逝されたことは我々を悲しましたが、今や御長男が後を立派に継がれている。

ここに並びの南の方から天安が移動して来ている。)、平安堂せと物店、雨宮にんじん店、三クラ靴店、並木砂糖店(団子坂の近くに移動して現存)、そして角地に果物店とせんべい屋があった。昭和十年頃から戦争が激化するまでは、肴町といい、俗に肴町といえ、蓬萊町界隈では、山手の盛り場の雰囲気があった。十字路を渡って更に北には、角地に東京貯蓄銀行(現在の住友銀行)それから少しはなれて、この間のことはまだはつきり解らないのだが、兎に角、映画館の駒込館が既に大正末期からは建っていた筈だ。その次の細い路地を入ると、日本髪と洋髪の両方の髪結の今井という家があって、次に古い米穀商、それから飛んで越前屋酒屋などがあったと覚えていて。このそれぞれのお店には、私なりに想い出がある店が幾つかあるが、それは次回にご披露するつもりである。

蓬萊句壇

於 肴町長寿庵
六十一年一月二十四日

天 初刷のバズルをうめてのどけしや ひろし
地 初刷も乗せ上野発二十二時 連木
人 初明り漆黒に古る墨の壺 喜一

町会活動の概要

昭和60年9月中旬から
昭和61年2月中旬まで

総務部

- 9/12 文京区町会連合会創立30周年記念行事 打合せ会議
- 10/1 「昭和60年度国勢調査日」当町内の調査員には、町会役員が委嘱されて調査させて頂きましたが、皆様のご協力を得てスムーズに処理が出来、誠に有難うございました。
- 11/1 文京区長を囲んでの対話集会、向丘出張所に於て
- 12/15 門松(絵ピラ)を会員宅に配布
- 1/13 文京区町会連合会創立30周年記念式典 挙行

防犯部

- 9/30 「秋の全国防犯運動」行事説明会 駒込警察署に於て
- 10/11、10/20 「秋の全国防犯運動」実施句間 当町会の地域においても最近空巢による被害が多発しています。留守にされる時は、戸締りと共に近隣のお家にも一声かけてお願いし、不則の被害を未然に防止しましょう。
- 10/13 「防犯決起集会」千駄木小学校で催されました。

防火防災部

- 11/10 文京区役所主催による「防災リーダー講習会」文京六中校庭（9時～12時）
- 11/26～12/10 「歳末防火運動」ご家庭の台所等火の使われる個所の訪問指導が本郷消防署署員によって行われました。
- 11/28 防火防災研修会 文京区民センター於て

交通部

- 9/21～9/30 「秋の全国交通安全運動」実施
当旬間は、交通部、婦人部のほか友の会の皆さんのご参加も得て、街頭において交通安全の指導と呼びかけを行いました。

婦人部

- 10/30 共同募金 一金一五九、六三〇円也
- 12/5 歳末助け合い募金 一金一六九、〇〇〇円也
毎回、募金につきましては、皆様の深いご理解を賜り高額な金円に達しております事を厚くお礼申し上げます。

文化部

- 11/26 東京都婦人防火部合同訓練 晴海会場
町会員のご家庭で本年成人を迎えられた方は、左記の方々でございます。当町会から新成人を迎えられた方々に心ばかりの祝品をお

贈りいたしました。

記

- 堀江 英紀様 木村 明男様 高橋 紅理様
- 生田目洋子様 山崎 美徳様 成澤真由美様
- 小泉美知子様 清水 俊介様 西村 理恵様
- 加藤 美次様 酒井 美佳様 倉田 和明様
- 早川さを江様 石川 雅巳様 林 則之様
- 橋本 剛様 奥山 晃男様 萩田 暢広様
- 海老原昌絵様

青年部

- 10/20 町会と共催により自主防火訓練を大観音境内に於て初めて催しました。

当日の訓練は北部地域の皆様を対象にご参加をお願いしましたところ、約50名の参加を頂き、実地に消火器を取扱っていただき、大変好評を皆様より寄せられました。3月2日には、中部・南部地域を対象として、次回と同様の防火訓練を行いますので是非ご参加下さい。

1/5 「子供達集れ焼いも大会」長元寺さんの境内をお借りして「落葉たき」と「焼いも」を子供達を囲んで催しました。（参加者 35名）

計報

当町会にお住いの方で、9月から2月中旬までの間に逝去された方々のご氏名は左記のとおりでございます。
謹んで弔意を申し上げ御冥福をお祈りいたします。

記

- 小野里秀雄様 小山 貞様 長谷川藤太郎様
- 原 君子様 大畑善松様 布施 求 一様

編集部

ついこの間、お正月を迎えたと思っていいたら早いもので、本号がお手元に届くころには、気候も幾分春めいて来ることでしょう。
しかし、まだ寒暖のはげしい季節、会員の皆様には健康に充分ご留意下さい。

町会の運営ならびに本号の編集についての意見等がございましたら編集委員までどうぞお知らせ下さい。

編集委員

- 小林音吉 竹中一馬 猪熊良晃
- 高橋一郎 翁 松夫 池田 暉

◎次回の発行は、六月を予定しております。